

新葉和稿集

二

93-5

庫	文	閣	内
特	三	二	和
番	八	〇	書
甲	一	一	類
架	冊	號	

此書ヲ史料ニ引用スルトキハ前田侯爵本
ト対照スルヲ要ス

内閣文庫	
番號	和 32801
冊數	3 (1)
函號	特93甲 5

特93-5
甲



Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

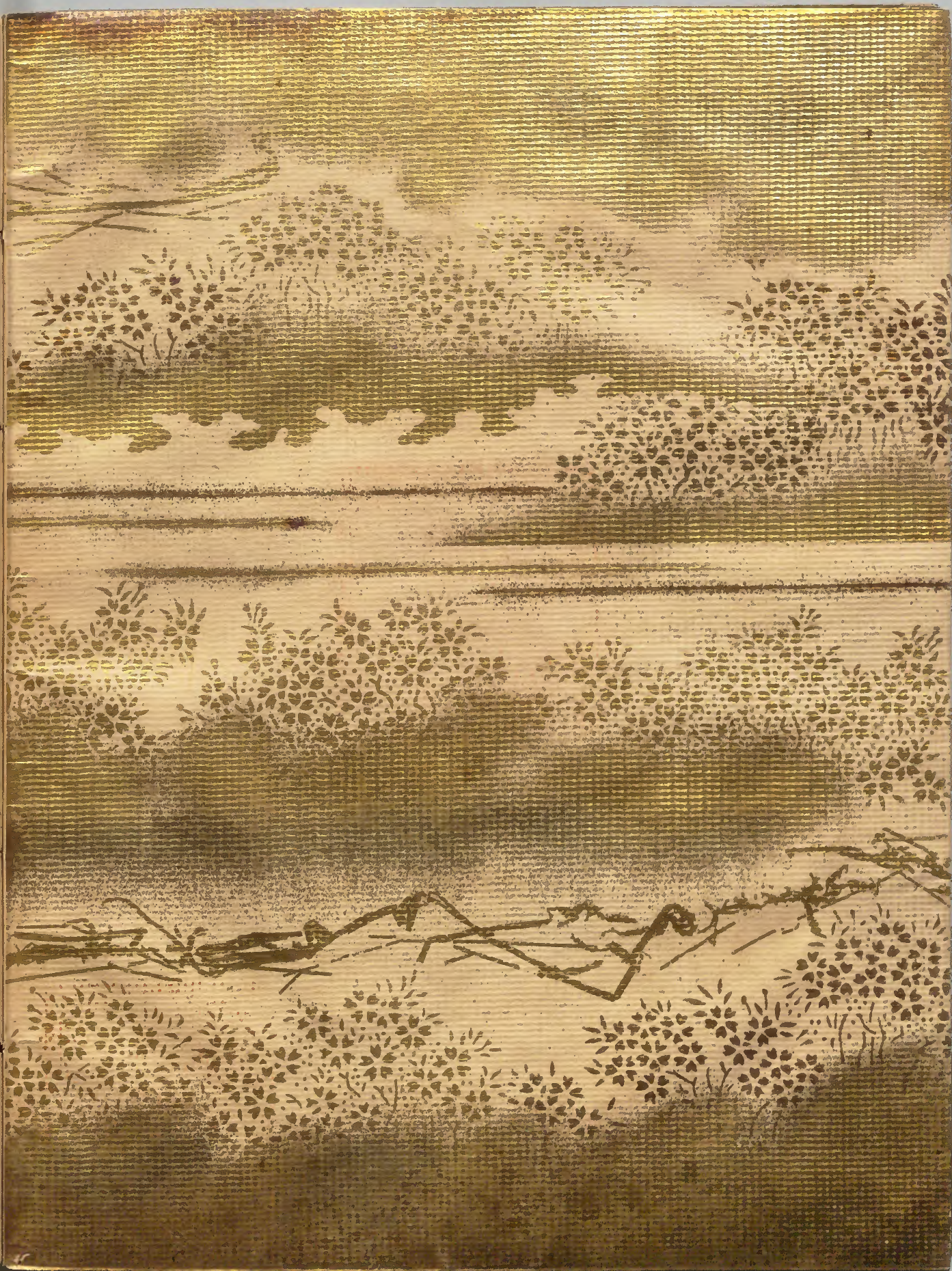


© Kodak, 2007 TM: Kodak



白紙のページが続く箇所があり、白紙箇所は省略

和書
三二八〇一號



世にうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
弘福のうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
のあはれいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
予が御書としていふらんをかくと元弘のほしめしむるを
弘福のうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
ほしめしむるをかくと元弘のほしめしむるを
をかくと元弘のほしめしむるを
まゝまゝいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
邦とていふらんをかくと元弘のほしめしむるを
めて弘福のうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
いふらんをかくと元弘のほしめしむるを

てららにいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
弘福のうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
のあはれいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
予が御書としていふらんをかくと元弘のほしめしむるを
弘福のうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
ほしめしむるをかくと元弘のほしめしむるを
をかくと元弘のほしめしむるを
まゝまゝいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
邦とていふらんをかくと元弘のほしめしむるを
めて弘福のうつくしきものいふらんをかくと元弘のほしめしむるを
いふらんをかくと元弘のほしめしむるを

新業和歌集卷第一

春歌上

をいふのふとよもやせはなむら

後村の院河製

は白く春は見えぬあけのぼるけり 五つ(はあはれこひ

子首歌うん何し中し立春閑し

中務卿家良親王

美事なりあめいはいし歌と云はせしり 河波の山

う(あめいこほり歌とさうりく 百首歌はけり

まつりからけわてし 立春氷といふはけり

河製

河製

風より池の水もさけ地よりけり 波もさけさるん

百首歌うん何し中し

冷泉入道前右大臣

九歌は歌うん何し中し 井のと物らすめり

建武二年内裏より人々歌とさうりて子首歌

うん何し中し 春大歌と

中務卿尊良親王

礼多しとよもやいし先立と何し 歌はけり 歌をり 中し

右大臣子何し 何し 二百首歌命し 何し

もろく 漢餘意とす 何し 心い

関白右大臣

河を渡り又より音に來ぬしきりしは名に下
新しと

前中納言為忠

はまにあり信の言に信ありてあつくまの松の下
松下殿言にふとひしと物げ

春宮大史師息

風ふしみるあしきと若代やあしとけぬ松の下
百首言にまじりて信ありと云ふ

後村上院御製

うはくはしりて松ありたりと名に信ありと
春言中に

妙元寺内大臣

若松はつとまじりて信ありと云ふ

冷泉八道前右大臣

いふはれも言はれりて人し信にぬ言はれ
正平八年内裏より人し信と云ふりて
いふ言にありて信あり

福恩寺前内大臣

あはれも言はれりて信ありと云ふ
いふ言中に

いふ人しと

いふ言にありて信ありと云ふ
竹言にありて信あり

後村上院御製

いふ言にありて信ありと云ふ
いふ言にありて信ありと云ふ

中務卿家長親王

考ふふいの世へ所祀一志一ししをいしてりかつしん
正平九年内裏より一人、年中御奉と銘して
二百六十首歌と作らむ所献。若志と云ふ
よらんゆもり
前内大臣 澄

子世への世にいつとてたえさあらふもつらうらん
百首よりとせぬげん中か

後村と院御製

ころとらむしそくいつとてあて世へのあまもつねせり
歌一十次
後醍醐天皇御製

よらむ世の魚もいほらり禁ら世へのりしつらん
太宰帥泰成親王

清くしるるよとよけていせら世へのりか、今も揚ら
前大納言家房

た人いほありてたえさあらふもつらうらん
入道前右大臣

くあつてあま世にほらむらりあらふらあ
歌一十次
よらん人あらと

とつらあ世の下に、あはら世へのりか、今も揚ら
右近大将長親

よらむ世の魚もいほらり禁ら世へのりしつらん
白前家よりとせぬげん中か

冷泉入道前右大臣

まことと云ふとむらうつらむらうののりさうらむら
影しとと
入道前右大臣

又いふとあつと思ふ不道は神の影りさうらむらむら
浦島と
中宮

浦島太郎の神のうらむら影りさうらむらむらむらむら
文中元年内裏より人々影とさうらむらむらむらむら
亦命のゆげむら影りさうらむらむらむらむら

関白右大臣

むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
大授元年内裏より人々影とさうらむらむらむらむら
春宮大史師兼

春宮大史師兼

むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
正平九年内裏より人々影とさうらむらむらむらむら
亦命のゆげむら影りさうらむらむらむらむら

前大納言光有

むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
夜梅と云ふとと
新宣湯川院

ふのむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
梅葉風と云ふとと
後村と院清兼

後村と院清兼

むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
影しとと
後醍醐天皇清兼

後醍醐天皇清兼

梅の花を此詠の句とし木のし風をとりまじり
文中に年内裏也十萬亦合し彦梅煮風は
ふよふ

おぬ人色はふいに白きり彩を此梅の花のししは
影しと
うん人らうは

吹風のそらにいら梅とさうそのそらもあかく
立白葛の弁合し
前大綱之実為

白く梅とあつて彩を梅とくあは花のあしと
ふよふ中し
是息詠也

吹風めいりに彩を此梅とさうし
今とまよひふにありし中し
梅のあしと

梅花ひかりとさうまつらう

福思寺前関白内大臣

ふよふ
あはれ
御製

ふよふ
子首すまうし

中務卿宗良親王

あはれ
春宮めく人の影とさうして百也十萬亦合
梅散得客とふよふ

関白内大臣

ふぼりたてあつしとすじんくりにてむらもよの月
も清方中

後醍醐天皇御製

いふてあつしとすじんくりにてむらもよの月
中台

しとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
正平九年内裏二百六十首奇中に禁中春月

前左近大将公冬

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
二百萬奇命

前内大臣 顯

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
この國に住ゆ此霧中百首方清てむらもよの月

つりゆ中

中務卿家良親王

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
百首方中

冷泉入道前右大臣

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
影

中院入道一品

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
幸小内親王

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
権中納言実興

ちとむらよのころとあつしとすじんくりにてむらもよの月
入道前白家

新樂和歌集卷第二

春音下

新次

後醍醐天皇御製

春の音はさかづき花のあけこぼれを南河とよむ此
うらけの初音をまじへてけしき井の梅とて
世音守りかゝりてありけり花のあけこぼれは
つらき色もあは

春音中一

中流入道一品

春の音はさかづき花のあけこぼれを南河とよむ此
うらけの初音をまじへてけしき井の梅とて
世音守りかゝりてありけり花のあけこぼれは
つらき色もあは

後醍醐天皇御製

春の音はさかづき花のあけこぼれを南河とよむ此
うらけの初音をまじへてけしき井の梅とて
世音守りかゝりてありけり花のあけこぼれは
つらき色もあは

前田大臣 浩

正平九年丙寅七百首音中一統祀

右大臣清實成直

春の音はさかづき花のあけこぼれを南河とよむ此
うらけの初音をまじへてけしき井の梅とて
世音守りかゝりてありけり花のあけこぼれは
つらき色もあは

入道前右大臣

春の音はさかづき花のあけこぼれを南河とよむ此
うらけの初音をまじへてけしき井の梅とて
世音守りかゝりてありけり花のあけこぼれは
つらき色もあは

前大納言元任

春の音はさかづき花のあけこぼれを南河とよむ此
うらけの初音をまじへてけしき井の梅とて
世音守りかゝりてありけり花のあけこぼれは
つらき色もあは

正平八年内家小首中にて禰花

前中納言為志

とて禰花代はさぬ紅はうと禰花いまうらから

禰花守中に 後村之院沙蒙

あはれしうきもこときと禰花うらにかしかうかき

別花と 福徳寺前剛白内大臣

ふりきし別花ならきみりのいさひは花のうらうら

影〜〜と 入道前右大臣

あはれしうきもこときと禰花うらにかしかうかき

後村之院以阿多奇合と〜〜と

右云沙蒙成直

とて禰花のいさひは紅はうと禰花いまうらから

別花の中と 二品法親王聖徳太子

はしたふ禰花白ひつくととて禰花をうらうら

前中納言高母

こころは禰花のいさひは紅はうと禰花いまうらから

前中納言為志

あはれしうきもこときと禰花うらにかしかうかき

剛白内大臣

入道前右大臣の禰花うらにかしかうかき

夕花と 冷泉入道前右大臣

初階入あいの禰花うらにかしかうかき

影不知

前中納言忠成

侍りまほしき〜しては行ふ所は〜と記し候は
八道前右大臣

ふひれとめて〜ん今〜て〜あ〜る〜も〜れ〜る〜に
正平八年内裏より首書の中し記押頭

前大納言光任

いさ様より〜〜ん馬殿玉の御り〜この志は〜
任事社二百六十番奇合と春極物

後人不知

い様ら〜ゆ〜〜は家信〜に〜つ〜枝の毛や〜ん
廟の信子云々〜し〜る〜を〜る〜い〜る〜記の

枝〜〜〜と人の〜〜は〜〜

中務卿宗良親王

〜〜〜とわ〜〜は〜と〜あ〜ん〜し〜家〜ら〜は〜い〜ぬ〜
二百番奇合と 二品親王仁孝

名聲心算の志〜〜と〜〜の〜〜と〜

名聲〜ゆ〜〜は〜ら〜〜謀〜雲の記〜夕〜〜

〜ら〜ら〜し〜〜と〜〜て〜肉〜〜と〜〜つ〜〜と〜

新侍賢川院

〜〜〜と〜は〜様の一枚と〜九〜と〜色〜〜て〜ん〜

二百番奇合と 八道前右大臣

志〜か〜よ〜と〜ぬ〜〜〜〜と〜〜し〜〜と〜色〜り〜記の〜信

御製

吹凡もやまらむらむら祀さうりあぬやまも也てりらん
あうらんじ

冷泉八道前右大臣

何あまはたのちもやぬせもふも極のくもくも

正平六年丙辰二百六十首奇中一裁祀ふ

ふ

前中納言実秀

うけうぬもむみりり祀感久く是もはもはのき

中納言中納言りた大将うつりゆさる祀家

百首奇うとゆら中一祀と

右大臣

まじりみりの極き祀りりふりぬ神もふも

大物かしてゆもん次の年りも旧家もて人

数とさうりて百首奇換ゆら一禁中一祀

ふらんじ

前左進人持公

まじりもこのめ物と今方のりり見りり祀の下位

百首奇中に

冷泉八道前右大臣

別のりりい立別ても無くも四階祀のじり也り

遠く極ゆけりたん見ゆけり奇中一禁中祀と

中務卿考良祐

みらんがけりり思やんはいさわ祀ゆらりと

正平八年丁未の御書とて数とさうりて百首

奇はきうもつりもん次とゆららんじ

後村と院浄教

あいなりのんたうんたう百卷の祀しるもはるの威と

祀事の中し

くえん人あつと

祀と後村のんたうんたうの祀もはるもおしむす

天授二年内裏より人く勢とさうりて百卷の

命の勢とさうりて祀と

中務卿家良親王

後祀めあしむとぬたすあまのりめあしむとぬたす

勢と

中院入道一品

いふて元のんたうんたうめんとて後の方ぬせうい

延三位俊文

祀とあいにゆふみむたぬりてし元はういなりを

子首奇しきまつりて時野祀と

中務卿家良親王

あいなりのんたうんたうの祀もはるもおしむす

ふと奇の中に

中院入道一品

甲いふぬたあしむとぬたすあまのりめあしむとぬたす

と百卷の命

氏祿卿元質

うはりのんたうんたうの祀もはるもおしむす

前内大臣 頭

うはりのんたうんたうの祀もはるもおしむす

祀事の中し

前中納言為忠

らゆきあぬ様うつらふ一糸は祀の色りりらり

冷泉入道前右大臣

今に祀身ゆりしきしきまてうつらふ祀とすしひりり

前内大臣 澄

いそぎの福ふ祀りきとのふひりあてすしきあてし

藤原院

後祀りてきくらういそぎのきよめあてし

剛白左大臣

こころに人ほとすをらけりしひりりあてし

久人

かあそゆり南坂にあてしひりりあてし

子首奇なり一町領祀と

右近大物長祢

月のらき福のゆりてはりり祀りり

影一次

二品法祿と聖書

うき世の流津みかきよとてあてぬ波くらん様

建武二年内裏子首奇り中し

中務卿高長祿と

吹風のつとしいのはかひりあてぬいり祀りり

祀奇中し

右近大物長祿母

あゆみ心のはきしきりりりりりりりりりりりり

藤原院

浪もくもくい祀り感うてまは日教いと念の松山
子育ありりり春歌きといゆるんんん

去宮大文師魚

祀らり月いさゆらうらたのまは別ういんあうま
書去祀といふいふいふもはけり

西宮門院

かたのめいふいふいふいふいふいふいふいふ
書去祀といふいふいふいふいふいふいふ

新宣陽門院

あとうてい後ういふいふいふいふいふいふいふ

新葉和歌集卷第三

夏哥

百首ありえゆもん中

冷泉入道前右大臣

百城やうふ宮人いあうらう祀のいりあうらうあうらう

更衣情をいふゆるあうらう

中宮

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

建長二年丙辰子育前中

中務卿孝良松王

衣衣子ういふいふいふいふいふいふいふいふ

也百篇新合

御製

とてまて心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
百首より先約し中し

中務卿宗長親と

とつて心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
新樹と

前大信正頼意

花のみと心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
影しり次

貞子内親と

卯祀の心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
正平亦年月裏二百六十首より漸約新と

いふ心し

前内大臣

澄

今より心とまを成りたり祀うとて心と見ふと

同八年内裏より首より中し

前中納言為忠

心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
百首より漸約し中し

前中納言長賢

是川の心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
待新と心とまを成りたり祀うとて心と見ふと

前大納言

年名ナシ

新と心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
心とまを成りたり祀うとて心と見ふと

正卿大守懐邦親と

心とまを成りたり祀うとて心と見ふと
心とまを成りたり祀うとて心と見ふと

冷泉入道前右大臣

ふんとうしにきりしと申す所はさうと申す所なり

前中納言氏定

はまがその御とらへてし御の月もあつぬが御とらへし

子首前年一町月前部云と云ふ御

春宮大支師魚

あつて御あつた御とらへし御の月もあつぬが御とらへし

芸林御礼と御とらへし人々也十首御とらへし

中一 右芸林御禮直

と申す御とらへし御とらへし御とらへし御とらへし

天授二年内裏百萬歩合

開白江大臣

邦云はくうてら星のふに御とらへし御とらへし

也百萬歩合 前大納言実高

はあふも思ひいさうと申す所はさうと申す所なり

新一町 中流八通一品

うつ御とらへし御とらへし御とらへし御とらへし

と見人一一と

ゆぬよのふはさう御とらへし今一町なりあつらへし

大宰卿春成御と

と申す御とらへし御とらへし御とらへし御とらへし

建武二年内裏百萬歩合

中務卿高良御と

邦と鳴つてはる人、あはれと初らとつ、このまに

正二位國友

御進して今も鳴る邦と、あはれとつ、このまに

「最寄の中」 前大納言先任

邦とつてはる人、あはれとつ、このまに

大授二年内家百第号合、邦と

氏邦師先資

あつてはる人、あはれとつ、このまに

あつてはる人、あはれとつ、このまに

あつてはる人、あはれとつ、このまに

上野太右守永祐と

あつてはる人、あはれとつ、このまに

あつてはる人、あはれとつ、このまに

右近大将長親

あつてはる人、あはれとつ、このまに

正平十二年内家百第号合、邦と

冷泉入道前右大臣

あつてはる人、あはれとつ、このまに

寝元邦と、あはれとつ、このまに

あつてはる人、あはれとつ、このまに

新宣陽門院

あつてはる人、あはれとつ、このまに

うのどのことと致とてりて百番前命仰げ
非ふい 御製

はのりか祿元のさむ非ふい
影とて 妙光寺内大臣

非ふい
正平八年内家の子前命仰

鳴りていもさむ非ふい
前大納言李継

正平八年内家の子前命仰
前大納言元任

前大納言元任

内裏百番前命仰
中務卿家長親と

八鳥がけ祿元のさむ非ふい
妙光寺内大臣

非ふい
うのりか祿元の子前命仰

非ふい
正平八年内家の子前命仰

正平八年内家の子前命仰
妙光寺内大臣

鳥がけ祿元の子前命仰

西中邦と云ふは

邦と云ふは

影一 次 前中納言

是安の心

前中納言

邦と云ふは

忠月又日高海の

新待賢院

ついで

中納言

抑

霧中百首

あやめい

影一 次

うら

前大納言

ふ

前大納言

ゆ

百首

後村

忠月

正平八年内裏子育年中ノ流五月酉と

前中納言為志

うらひてしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうふん

冷泉入道前右大臣

五月卯にらて流る流りこの比未れ心はきりうの比

心五月酉といふふん 前月大臣 謹

ふちりあふ信いさうつと申し心はきりぬ五月酉の比

影一ふん

信中納言為志

あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比

信一ふん

後醍醐天皇御製

あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
信濃國のゆき此をうらふ人れいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
ゆき

中務卿家良親王

心五月酉といふふん

信中納言為志

あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比

前中納言為志

あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比
あうあふいしつと申さう市川の流りる系ゆきしの比

刑白家之百萬歌合と一夏草深といふふん

信中納言為志

物さしつゝも如通流し今文し師ふ友は、流るるに
夏草山 後醍醐天皇御製

ふじつも毎ね友まうしつゝいあつてや梅のちとゆき
友亭中し 信大納言公夏

風さくかゝるあつたけみしてりりし涼し友はよの月
文貞公

ふりまに氣し舞もまろくぬ月の登りも友は秋のそ
子首寄中し河友月易めといふらひらひ

刑白江大臣

心持つゝこととて友はよの月さしつゝ物さしつゝ物
影しに 二品法親王聖書

町らぬごころあつた友はよの月さしつゝ物さしつゝ物

後醍醐天皇御製

みづも月さめてあつた友はよの月さしつゝ物さしつゝ物

妙光寺内大臣

あつた友はよの月さしつゝ物さしつゝ物

信大納言公夏

福波さしつゝ物さしつゝ物

後醍醐天皇御製

友はよの月さしつゝ物さしつゝ物

百首寄中し

月はよの月さしつゝ物さしつゝ物

影一紙

く見人らう教

道に於ては、其の意を以て、く見人らう教の意
水邊を以て、く見人らう教の意

後村の流の製

文を以て、く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意
く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意

春宮大史師の意

く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意
く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意

く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意
く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意

右大臣

く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意
く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意

細涼の心紙

新宣湯門院

く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意
く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意

右大臣の意

右近大納言の意

く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意
く見人らう教の意を以て、く見人らう教の意

心もたの柳も枯らさぬはしるすくふ蜂もたの
夕ととらまもはしるす

後村の院の製

鳴神のまはる井の高砂の石はるすくふ蜂もた

形一欠 前飛城待所

いふ松の下流さつらん夕ととらまもはしるす

西三位國長

さく後さつらん夕ととらまもはしるす

也百萬奇合し 入道前刑白石大信

物も海にほしとまあつて夕ととらまもはしるす

信吉社二百六十萬奇合し 夏雜花

くえん人ら

さつらん夕ととらまもはしるす

新景和歌集卷第廿

襖奇上

子首歌等一町之林風とてぬ

中務卿宗長親王

あさふらとめを糸にひきかへぬとてぬ

影一と

前中納言為忠

友と梅のしあひぬとてぬ

子首歌等一町之襖奇と

右近大納言長親

あしゆきの床とぬとてぬ

春宮大史師兼

今更りの祐さめり床の表まてふとてぬ

源氏物語のいと兼とてぬ

申一

申吉

あまきこ入るぬ梅とてぬ

梅の西首と申一

新行賢門院

今朝きぬ秋のうらにぬとてぬ

正平十八年内裏とてぬ

竹の町初梅のふと

福思寺前刑白内大臣

住吉の松とてぬ

芸師御社と家とてぬ

氏神御元寶

心より伊波が所ありしは、
海邊祀煉と
中務卿宗良様と

波にまみるめに煉はまゝし
刑白家之百箇首合し薄末出穂とふ

前内大臣 院

建武二年内裏之百箇首
中務卿宗良様と

正平六年内裏之百六十首
中務卿宗良様と

延二位儀子
物とふ

同十三年七夕七首
後村院御製

七夕後
冷泉入道前右大臣

妙元右大臣
御製

御言はる所のいふは、
奥國也年七月七日内裏より

御言はる所のいふは、
奥國也年七月七日内裏より

御言はる所のいふは、
奥國也年七月七日内裏より

あの中し

心條贈左大臣

ふらふらとわらふ心しそのらふ二の星のしあいのこ
と百葉あ合し

信中納言実具

まふまふと笑ふくも妹はしてわらわ教ふ星合はる
影し次

前中納言氏定

七夕のあはれを衣きても又くゆる恨の教やうらみ
正平十二年八月七夕七首あ中し七夕後朔と

通照光院入道前左大臣

あはれの河今朝も波り立ちつる年のつらと又やゆん
あまふんば

幸子内祝と

とくぬりつらとほし〜七夕の今朝もさあ夫の河波

秋とよらんゆける

前内大臣 澄

吹風いもつちがまて秋の果はららうらな妹も夕音
采唐妹風とゆふは

新宣陽門院

あふ人のこころを〜ゆき〜さび〜妹も〜つ〜は秋は〜は
影〜と

冷泉入道前右大臣

ふふ〜ふ〜魚と記して秋のをい〜あ〜も〜う〜ら〜は〜と〜歩〜か
子首あや〜町庭秋

信中納言実高

うらな妹ははのな〜り〜と〜ら〜な〜い〜う〜て〜ら〜な〜と〜庭〜は〜秋〜は
妹もあ中し

中務御高良祝と

きしつとせぬ秋ふ吹はしぬ人あしるりあひさ
よみ人しと

たふしをうけてはる秋の来にあはむと吹はのちか
梅夕の心は
言侍頼子

あはれふういひきてかき梅は夕の袖と落ちいまあさ
八道前右大臣

時の國りぞとせよとつひのうらむは梅は夕
源朝春朝臣

ふらむ秋の袖と落ちと梅は夕のうらむと
家より人の影とさうりて子育のくえゆる
中と故郷を
福徳寺新開白肉大臣

ふらむ秋のなむりし成りもりけうらふ系とあそと
住吉社三百六十萬歩合と施極物と
くえ人しと

桐の葉しとせよとつひのうらむは梅は夕
梅西と浪巴知ら
後村と院正繁

とつひ桐の葉しとせよとつひのうらむは梅は夕
新待賢門院

秋の葉しとせよとつひのうらむは梅は夕
新待賢門院

秋の葉しとせよとつひのうらむは梅は夕
新待賢門院

秋の葉しとせよとつひのうらむは梅は夕
新待賢門院

秋の葉しとせよとつひのうらむは梅は夕
新待賢門院

後しみしきとあつと梅秋のむしじとるあはれと

前大納言守房

秋の戸はたしとるふ白鳥とりのの教らと

秋と讀ゆと
前中納言為忠

業はしとるあつと梅秋のむしとるふしとるあはれと

前白鳥と白鳥言合と秋秋福と

前中納言実秀

とるあつと梅秋のむしとるあはれと

秋秋散ととるあはれと

後中納言清製

秋のむしとるあつと梅秋のむしとるあはれと

建武二年内裏の首言中と薄と

中納言吉良祝と

とるあつと梅秋のむしとるあはれと

首言中と薄と

御製

夕陽のむしとるあつと梅秋のむしとるあはれと

梅言中と
右を大納言長祝母

梅色のうねとるあつと梅秋のむしとるあはれと

也百萬言合と
入道前白鳥大に

とるあつと梅秋のむしとるあはれと

御製と
御製

とくじらみ別務とま〜思つてせぬらひ〜のこゝ
燭前中〜
文貞乙女

ま〜くも袖とぬし〜燭前燈の影まげ〜ろくろと麻の糸
ふ野たも懐邦祝と

何〜た〜ふ〜と〜ろ〜ろ〜と〜恨て燭の麻の鳴〜ん
奥國と羊肉寝〜ろ〜人〜影と〜ろ〜り〜て〜言換作を

る町夜麻と
氏祐御親忠

長〜と〜と〜ろ〜減〜ろ〜ろ〜も〜ろ〜て〜た〜麻の月と鳴〜ん
影〜ろ〜次
菅原為基

あ〜ろ〜は〜ろ〜た〜えの〜ろ〜と〜麻や〜淀〜ろ〜は〜り〜お〜月〜影〜ろ〜ん
右大臣

ま〜あ〜ろ〜と〜い〜ろ〜ろ〜ゆ〜て〜歩〜由〜也〜月〜影〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜の〜こゝ
ろ〜え〜人〜ろ〜ろ〜次

燭のろ〜ろ〜信〜町〜わ〜て〜ろ〜ろ〜麻の〜と〜お〜ま〜し〜ろ〜ろ〜糸の〜色〜か
淀二位初我

じ〜ろ〜あ〜ろ〜と〜し〜ろ〜ろ〜は〜ろ〜ろ〜て〜お〜魚の〜田〜面〜燭の〜用〜ろ〜ろ〜ん
中流入道一品

ま〜ろ〜ろ〜思〜抱〜ろ〜ろ〜あ〜お〜め〜た〜ろ〜ろ〜ゆ〜ろ〜ろ〜ま〜つ〜局〜お〜志
也百番前合〜
沖製

月〜ま〜や〜と〜ろ〜ろ〜影〜ろ〜ろ〜ま〜し〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜乱〜造〜て〜け〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
影〜ろ〜ろ〜と
左大臣辨時長

秘傳のろ〜ろ〜守〜て〜高〜砂の〜鳥〜と〜と〜ろ〜ろ〜燭の〜影〜ろ〜ろ〜身

正平六年丙辰七百首之中一務應代と

妙无寺内大臣

花よりとよがし河津吹雪しづかの夕景

美名生御言よ人よありと物もなし

冷泉入道前右大臣

忘れやみくさし地より丹生河原あきの夕景

輝守中と 紀福文

程波も入江もみくさしとこめて弟より出ぬ輝のふか人

近三位國量

信吉の奥とあめてと弟よと志つとくしぬり津河橋山

史百篇あ台と 前大納言元有

り津巻く松の末もみくさしとあてとるりくさく河川胡糸

新と 後醍醐院御製

つふまの身は絶たにみくさしと礼しては教ふくさく松と

小育前と 後醍醐院御製

御製

夕月の雲吹き物事天ととる夜とさつ月の新と

月と 入道前右大臣

どうし夕の影ととる秋よりさやとさつ輝れとの月

冷泉入道前右大臣

くさくさるさびしきくさく夕月夜うつ新と 山姥若く輝れ

中院入道一品

物いづこびあまの主人と成てを月いみまへうまける
二品法親王仁登

心持のあまの親王の福よりいみまへうまける
刑白家二百萬の命と正月祀昇が云事と

檀中納言実具

月と心持のまつしお祀して松ありまへうまける
新待賢門院

貞子内親王

いぬらえげりどるまのまへうまける
也二百萬の命と
前大納言元有

梅月と心持の福とまつしていづる月と
月事申し
祥子内親王

中務卿家良親王

輝月と心持の福とまつしていづる月と
建武二年うらと心持とまつしていづる月と
はうりつりしつり月とまつしていづる月と

後醍醐院の製

みらん心持の福とまつしていづる月と
正平少輔内家と百六十首の中と禁中月
妙无寺内大臣

しづむる登原の萩と枝うしうつしとる袖は月新
月新中し
妙元右内大臣

海月のうしは枝もよし夜は月ありきうら海海は枝
海月と浪とあはれ
後村と院と津製

あしがさつらるる月が新文してきし魂はぬ枝ありし月
新しと
浪三位新裁

あなうしあつらるる月が海にさして海はうしあはれ
津守國久

と海あり人の袖はあはれし月を衣はきし月
新直陽門院

種はえり道のうしはさつらるる月のき母はありしと
正平十六年九月十二日
冷泉入道前右大臣

くりにあはれし月を衣はきし月
又やえん吹はしとこのきやるしとる月の枝あり今世と

月新の水とと事と
云林師師成親と
うの海をえと波と新し月ありきうら海海は

あはれし月ありきうら海海は
子首新中し
明白右大臣

月新し物ありきうら海海は
新しと
新中納言為忠

新しと
新中納言為忠

新しと
新中納言為忠

このたねをばしては病はよきまじ月海はつる成り
文貞公女

西よりしるはみことう記をば池にいへば病はよき
文貞公

浮きの強ぬきにしるは月にはいへば病はよき
後醍醐天皇御製

いへば病はよきしるは月にはいへば病はよき
妙无内大臣

うめつしるは病はよきしるは月にはいへば病はよき
二品法親王仁孝

いへば病はよきしるは月にはいへば病はよき
いへば病はよき

延元二年九月十三夜(一)のこのことと記とらりて月
二十有奇つりつりもん次と月前とといふこと
うめつしるは病はよき

後醍醐天皇御製

いへば病はよきしるは月にはいへば病はよき
世孫贈左大臣

いへば病はよきしるは月にはいへば病はよき
二品法親王仁孝

いへば病はよきしるは月にはいへば病はよき
子有奇年一町成也

中務御家系記

麻は意くや、麻はぬ、古は言はれ少き、花は下りまゝく水
まづしゝのまゝ、しづかと歩く、くも也、花はらん

新嘉川院

と此まゝの心、花はうゝして、花はらん、くも、くも、くも、くも

麻の中

坂上頼澄

古は言はれ少き、花はうゝして、花はらん、くも、くも、くも、くも

延元二年九月十日、夜、月、夜、月、三十首、前中

月前持衣

前大信正信隆

花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

信名社三百六十首、前中、花は、花は、花は、花は、花は、花は

くも、くも、くも、くも、くも、くも、くも、くも、くも、くも

ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ

新

幸子内親王

と、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

太平神祇成徳王

と、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

京極贈后太后

花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

遠き國の、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

中務卿高良親王

花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は、花は

妙元と月大信家百首中一

信中納之長賢

系り鳴く雲は夕の心懐く木葉ととらあさけの吹

悔亦中一

文貞云

思ふに悔ふげもせぬ花はあらの心遣い色灯より

度會通論

よる可わきららもさうら花のちと息とをせり

妙元と月大信

よゆら花の木葉のよるは木馬と花梅いつ可ぬらん

延元三年九月十日夜内裏二十首奇中一

月新紅葉

右大辨法忠

つらつら月が花さゆけし可ぬえ花の梅はさみらん

新くくと

右大辨法忠

思ふに悔ふに花梅は色のくらさぬ花とみらん

顔紅葉と涙と花びら 中言

みよるあさけの雲はあつと可ぬにうらなは花と

子首奇中一内巻紅葉

右大辨法忠

秋木葉のよるはつと可ぬ花と梅は色くらさぬ

百首奇中一内巻紅葉

後村院沙叢

花はさみらん花はさみらん花はさみらん花はさみらん

建武二年人、此と云りて、子育奇は、うらつり
も、次、梅極物と云ふ、此らも、色、好げら

後醍醐天皇御製

就、思、心、如、彼、中、か、ぬ、信、以、の、う、こ、し、の、心、

影、と

冷泉入道前右大臣

あ、れ、い、か、ぬ、ぬ、こ、と、何、心、の、し、多、う、と、し、の、心、

也、可、為、う、台、

源頼茂朝臣

可、わ、り、の、心、の、下、の、心、い、く、し、ま、う、こ、し、の、心、

中宮女御、中、か、ま、ま、こ、り、の、心、の、心、の、心、

影、と

西森院

君、を、や、梅、か、ま、わ、う、う、こ、し、の、心、の、心、

影、と、中宮、か、ま、ま、こ、り、の、心、の、心、

御製

此、を、梅、か、ま、わ、う、う、こ、し、の、心、の、心、

影、と

右近大納言長親母

深、く、と、梅、か、ま、わ、う、う、こ、し、の、心、の、心、

正平八年、内裏、子育、奇、中、の、心、

前中納言為忠

は、の、心、の、心、の、心、の、心、の、心、

影、と

前中納言為高母

は、の、心、の、心、の、心、の、心、の、心、

後三位行成

新集和歌集卷第六

冬歌

あゝの國の情は此野中百首歌に欠てたる人の
人のまゝの情は中と礼を以

中務御家良親王

たゞしやわらとくしははるる冬にまはるる

信吉社二百六十第百一首合の冬天歌

赤川入道前右大臣

かたてまゝに教ふるははるる冬にまはるる

日影言とくしははるる冬にまはるる

冷泉入道前右大臣

わがまゝに今朝ははるる冬にまはるる

礼を心とて候はるる 後河内院御製

あやましくはわらとくしははるる冬にまはるる

あまゆりもはるる冬にまはるる

新古今 延二位行成

あまゆりもはるる冬にまはるる

入道前右大臣

こゝに礼を以て候はるる冬にまはるる

前右大臣院

あまゆりもはるる冬にまはるる

あまゆりもはるる冬にまはるる

中院入道一品

病年をたぐひの病家かしく日毎に少く可ぬのか

小首寄中一 権中納之絶高母

吹雪の末に浮きたるはらの口とにみくふん

冬寄中一 後三位朝棟

とつてさぬさげに松原を又かたりまうて物可ぬか

前内大臣 隆

吹雪の末に浮きたるはらの口とにみくふん

位吉社二百六十萬寄合一冬天象

権大納之頭絶

物可ぬか

百首の寄中一

後村入道製

まゝ友しあひしつて福ぬかよき事とすれど少く可ぬか

位吉社二百六十萬寄合一冬天象

冬人

神皇正統記思自の御代にあら可ぬか

前大納之元有

神代月あつてつとみ果うらりくひりさるる

権中納之絶高

尾や物も板のうつしてあまうとぬじつ可ぬか

冬寄中一

二品位親王世系

まじらふと笑やとてあまうとぬじつ可ぬか

ははちの朝日しとぬは信と書かす地をゆくははち
刑白石大信

今朝のまじあもる福にあくしは書くとて母をばみら
正平亦年内家二百六十首中一編着常信

前大納言実信

ははちの朝日しとぬは信と書かす地をゆくははち
歌二百首中一見ゆげら中一

右大信

あつみ一巻のゆらのあまら(あまら)とてあつみ一巻
歌二百首中一見ゆげら中一

後何と院の書

あつみ一巻のゆらのあまら(あまら)とてあつみ一巻
歌二百首中一見ゆげら中一

前中納言信忠

あつみ一巻のゆらのあまら(あまら)とてあつみ一巻
歌二百首中一見ゆげら中一

前左衛門

あつみ一巻のゆらのあまら(あまら)とてあつみ一巻
歌二百首中一見ゆげら中一

刑白家二百首中一見ゆげら中一

前内大臣 歌

あつみ一巻のゆらのあまら(あまら)とてあつみ一巻
歌二百首中一見ゆげら中一

二品法親王取重

あつみ一巻のゆらのあまら(あまら)とてあつみ一巻
歌二百首中一見ゆげら中一

後何と院の書

百首中一見ゆげら中一

春宮大支師魚

鴨の祓えり小鳥よしとせぬおの祓えり鳥よしとせぬ
新しきす
くえんふとく

くえんふとくぬ玉ものことせしむりてさしもる鳥よしと
大宰帥赤成祓と

はらひしことの清水に海へつひりし鴨の羽
上野大寺懐邦祓と

くえん池お玉もの玉やこむらんう池祓の鴨よしとせぬ也
池お鳥よしとせぬ也

神製

比方のう池祓とくつ鴨とせぬ物よしとせぬよしと

冬奇中し

中務卿高良祓と

とつし高良し祓とせぬ也清いりまらぬ妙の袖
うの祓言よしとせぬ也

後醍醐天皇御製

抑傷ぬおむしとせぬ鳥よしとせぬ神よしとせぬ
位吉社三百六十萬奇合し冬地儀

二品法親王源勝

心何しらとせぬとせぬ鳥よしとせぬ
新しきす
右近大物長祓母

はらひし鳥よしとせぬとせぬ妙のうとせぬ
刑白たたに

ゆえに... 二品法親王と書きたり

... 式部卿惟成親王

... 子首... 刑白左大臣

... 礼部... 後村院清叡

... 百首... 冷泉八道前右大臣

ゆり... 源頼成親王

... 住吉社... 一人

... 考... 御書

... 仁... 右大臣清盛直

... 名... 右大臣清盛直

... 右大臣清盛直

吹向ふとつゝは言ひし言場のみかみ北山もゆりにけり
百首寄るえゆらの中し高紙

中院入道二品

昔向ふとつれもよつとていんあかしは松原にちつとあり
高紙花とふとふ紙 後村入道少輔

とていんあかしは松原にちつとあり
天授二年旧裏百首寄る命

権中納言經高

昔向ふとつれもよつとていんあかしは松原にちつとあり
新しあ 二品法親王仁卷

とていんあかしは松原にちつとあり
松原とていんあかしは松原にちつとあり

日前宮よりまじらむ十首寄る中し

冷泉入道右大臣

うつとていんあかしは松原にちつとあり
天授二年旧裏百首寄る命

中務卿家良親王

うつとていんあかしは松原にちつとあり
遠く國よりゆもは百首寄る中し高紙

中務卿家良親王

今朝のよといふ人もあつたか
新しあ 二品法親王仁卷

吹向ふとつゝは言ひし言場のみかみ北山もゆりにけり

入道前右大臣

うすいふくもてふ人如路とて物一途はるる
元弘二年百首奇中一

文貞公

はるるもつあつも九巻の世はるの物本の
あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら
あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら

とん人

あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら
あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら

後村と院以叡

あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら

入道前剛白右大臣

あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら
あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら

後村と院以叡

あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら

権大納言顯純

あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら
あつり物もは日と星はる人よもつらもあつら

前家藏持房

河原よりきたの鳥は西にまど吹かたりり登つた夕陽

入道前右大臣

ふり衣は夕陽のまど染やまど染のまど染のまど染
正平末年の裏より人々年中行事と記す
二百六十首ありて何れと記す
さうして豊明節會と

後二位國量

正安井の色とてあつた今存す
元弘三年迄后月次屏風と記す

後醍醐天皇御製

袖の如くあつたし女もあつた
袖の如くあつたし女もあつた

百首ありて西に存す
後醍醐天皇御製

後醍醐天皇御製

書物ありてあつた袖とて代々の記とあり

神樂はあつた
冷泉入道前右大臣

鳥のまど染のまど染のまど染

中院入道一品

秋まつりあつた
二品法親王聖書

人毎にありてみくし教ふ
果考法親王

果考法親王

果考法親王

百首ありしゆ一申し歌別と

中務卿宗長様と

花よけぬ人も袖はぬきんともまらぬとてかへし海
人ともあはれ

み人へし

元弘二年三月に於てかへしとてしんともまらぬ
かへしとてしんともまらぬとてしんともまらぬ
かへしとてしんともまらぬとてしんともまらぬ

中務卿宗長様と

花よけぬ人も袖はぬきんともまらぬとてかへし海
人ともあはれ

花よけぬ人も袖はぬきんともまらぬとてかへし海
人ともあはれ

花よけぬ人も袖はぬきんともまらぬとてかへし海
人ともあはれ

花よけぬ人も袖はぬきんともまらぬとてかへし海
人ともあはれ

あつりつり下りげら町まぬとせんかぶるつり
きよきよし

文貞云

とらあいのちよみ水思へりつりつり別りつりつりな
也

妙元寺月人信母

市は商人の道よし夜あてつりつりつり形見とととめ
又なつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
なんともつりつりつりつりつりつりつりつりつり
何止り

文貞云

あつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

尾法國とつりつりつりつりつりつりつりつりつり
言数

酒心つりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
幸いつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
何らら梅のつりつりつりつりつりつりつりつりつり

中書

おしいつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
中務御家良祝とあつりつりつりつりつりつりつり
らぬらつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

後板之院浄教

先くらあらんつりつりつりつりつりつりつりつりつり

ひび

中務卿家長祐と

めくりありん実あつてこそ天代といふ尤める男といふはん
あまし中務卿家長祐とのとてしりゆ

遍照光院入道前々政大臣

是しし月々ぬふにこそす大子かみなりあま
後河國の住りしははらりあまあま
信濃耳あんとて河彼國あうげら藤原貞長
とふ者あし秋もすもみ
あましつりて居りしはらりあま
は

中務卿家長祐と

あましつりて居りしはらりあま

信濃あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま

百葉奇命のゆゑのふい

尤の故又ましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま
あましつりて居りしはらりあま

春宮大史跡意

あ

中務卿家長祐と

あましつりて居りしはらりあま

新編和歌集卷第八

新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

新編和歌集 卷第八 新編和歌集

新編和歌集

車へ乗るとふゆより甲斐國へ入て信濃路へ
まゆげらうさかへるませの物へはけりめり
心りよしうらやまといふくみし

みんく〜

少〜南〜て今日〜不〜
百首御歌の中〜

〜
大善信りの〜

二品信託と仁巻

若根〜
影〜

前中納言惟経

〜

孫系行房朝臣

〜

〜人〜

〜

三香頼衡朝臣

小深系〜
右近大納言長秋母

〜
中務卿家長秋と

前月大信 信

ふかしの月と云ふごとく舟のゆき波やこまのりまうしん

後醍醐天皇御歌

ゆく月のたより舟まはるこころしきまへ入江と舟の舟人

舟人まはる

いさか海や波きこふ海のこころ舟まはる舟の舟人

舟子内祝

舟まはる舟の舟のこころ舟まはる舟の舟人

後醍醐天皇御歌

舟まはる舟の舟のこころ舟まはる舟の舟人

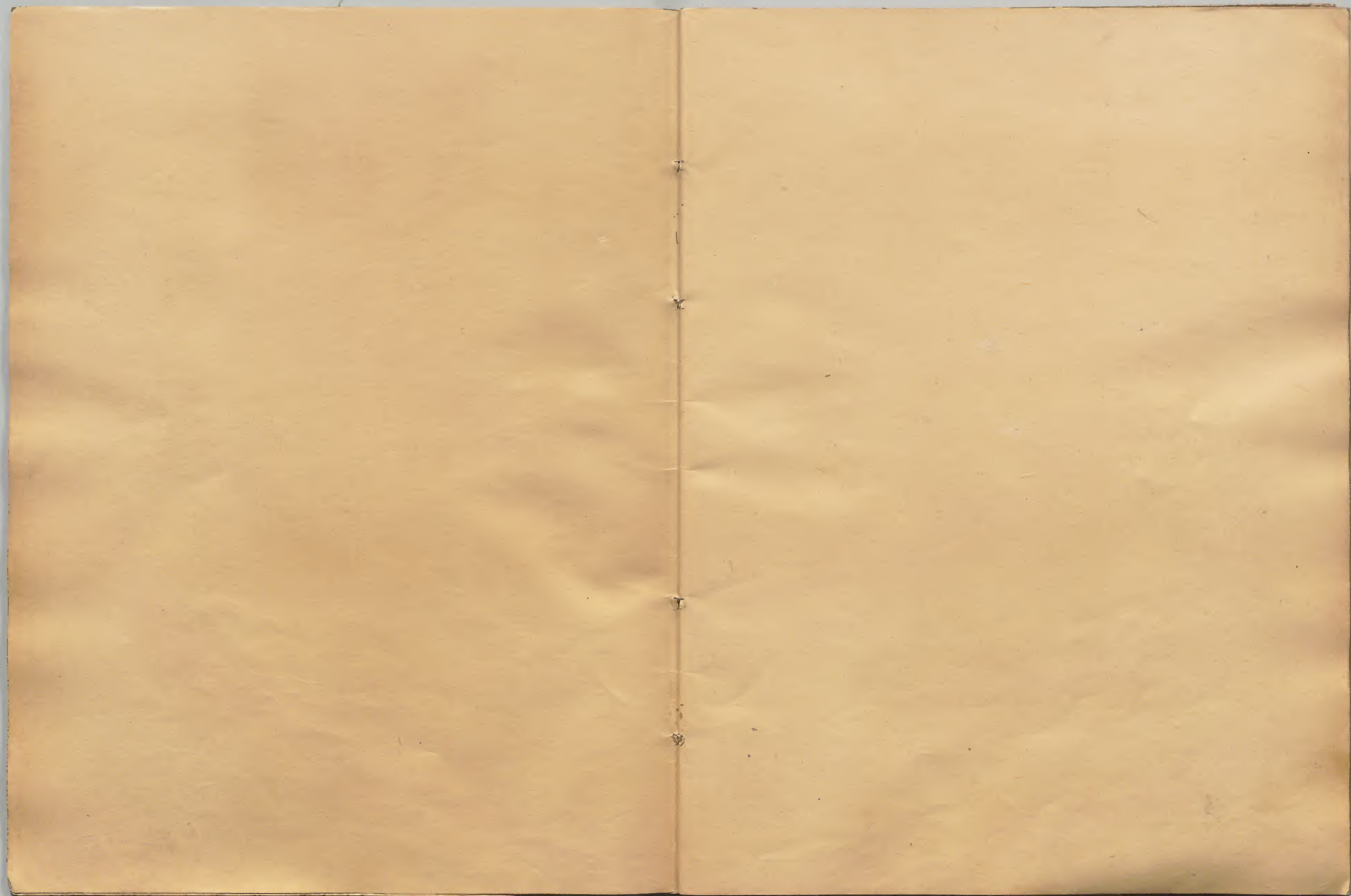
こころ舟の元弘二年徳波國より舟まはる舟の舟人

舟まはる舟の元弘二年徳波國より舟まはる舟の舟人

舟まはる舟の元弘二年徳波國より舟まはる舟の舟人

舟まはる舟の元弘二年徳波國より舟まはる舟の舟人

舟まはる舟の元弘二年徳波國より舟まはる舟の舟人



新樂和歌集卷第九

神祇歌

歌一十次

前中納言為志

神もやのこころをこころとて思ふのまゝに
神宮より退下すのらむはみこ

祥子内親王

ふめや神の力垣の御坐も
歌一十次

延二位隆基

あさかつく君はのまに神座
あさかつく君は

延二位家弘

神垣のまに神座
神垣のまに神座

云神御社と歌うて庚申し七百首歌り
もあかし

右云浦菅原直

神比心いしは月見君代
延元三年秋後秋と院

延元三年秋後秋と院
巴まし

巴まし
いふはつ

いふはつ
ふり

ふり
あ

あ
は

は
は

は
は

は
は

元弘三年之辰屏風と春日祭

後醍醐天皇御製

とらふつとくしんせよ藤の鳥居は花のしんせ
年中行事百首御歌の中しゆましんせ

後村と流御製

二月七日のしんせしんせ御歌しんせ
正平六年旧家七首御歌の中しんせ

妙无寺内大臣

あふしんせしんせしんせ御歌しんせ
神木入洛のしんせしんせの御歌

信大納言御製

神木入洛の御歌御歌しんせ御歌しんせ

大授二年御歌御歌しんせ御歌

御製

いつしんせしんせしんせ御歌しんせ御歌

年中行事百首御歌の中しんせ御歌

妙无寺内大臣

あふしんせしんせしんせ御歌しんせ御歌
影しんせ 津守國貴

あふしんせしんせしんせ御歌しんせ御歌

延之位御製

あふしんせしんせしんせ御歌しんせ御歌

正平十一年十月位者社の新奉有りて神の國量
正下位と叙る社々の所がなしてはけりや
社中系

後村と院御製

位者として所にいふ社神もえはりて世りて
正二位御子の叙の事ありて所の社のん
よして筆の祓曲とたじけなげり所のい
所もなりしも社神すくはるありて所
えはりて所いふ社神もえはりて世りて

新宣陽院

正平十一年十月位者社の新奉有りて神の國量
正下位と叙る社々の所がなしてはけりや
社中系

後村と院御製

位者として所にいふ社神もえはりて世りて
正二位御子の叙の事ありて所の社のん
よして筆の祓曲とたじけなげり所のい
所もなりしも社神すくはるありて所
えはりて所いふ社神もえはりて世りて

中務卿家長社

位者として所にいふ社神もえはりて世りて
正二位御子の叙の事ありて所の社のん
よして筆の祓曲とたじけなげり所のい
所もなりしも社神すくはるありて所
えはりて所いふ社神もえはりて世りて

前大僧正頼三

二月のけりと念ぬ社神も今日けりて所の
延元の比子守社もいふ所にて所の新奉
ありて所いふ社神もえはりて世りて

新待賢門院

ふりかぶれはらひのうぶきにしんをこひてを思ふ
にのいそふらなをこひてを思ふに月とて入記
影——と

後之位候文

かこあまらめこと光てしうめ繩ふらういれれやうをらん
祝方大西社之法樂——竹——子首哥中——

中待御宗良祝王

あつたまりとて家のみり人あつしとけられはらひ
とて海やちとてしつとて社——も——いあやうとめや
百首哥——も——色ほらち中——守社祝と

後村之院心製

ゆきひきふと久あまの社とつ社のあつしとけり

新編和歌集卷第十

新成寺

正平九年五月廿四天王寺金堂造立して居りて
供養導師はくぬぎもろくもこりあまして天台
座主ゆき并雲ふじの町遺身舍利と修し
てつひもぬぎめいりくぬぎもろくもこりあ
まろくもぬぎめいりくぬぎもろくもこりあ

前大僧正志

新成寺はくぬぎもろくもこりあまして居りて

後醍醐天皇大納言典侍ゆきゆきののち位右の
西林寺とふゆきとゆきゆきののち位右の

五畿内志 攝津

廢西林寺

在遠里少那塩殿所
礎石猶存云々

後醍醐天皇

新成寺の西の林に梅花とゆきののち位右の

浄也

後醍醐天皇大納言典侍

をよむしんあめくこりあましてこのりあ
後醍醐天皇二年の四月の次はゆきののち位
ゆきののち位右の町遺身舍利と修し
ゆきののち位右の町遺身舍利と修し
ゆきののち位右の町遺身舍利と修し

前大僧正頼

正平九年二月十七日莊嚴淨土寺より西八幡とこ

新集和歌集卷第十

新成奇

正平九年五月廿四日天王寺金堂造立して座して
供養導師はくめ約もりもこりあまして天台
座主ゆき拜堂ふじの町遺身舍利と修し
てつひもぬきめいふくは始りてまてぬ名残と
みるとうれしきうとゆもこり思いてうら

前大僧正頼意

新成奇てまてぬ始り名残もみるうきも始りうれし

後醍醐天皇大納言典侍ゆきゆきゆきのら位吉の
西林寺とふゆきとゆきゆきゆきの物記と

めうしうらにまてぬうらもせは

後醍醐院日記

新成奇のし西の林は物記とゆきのもゆきゆきゆきの

ゆき

後醍醐天皇大納言典侍

まてぬゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
後醍醐院才二年の四仙本の次はゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

前大僧正頼意

まてぬゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
正平九年二月十七日莊嚴淨土寺より西八幡とこ

うしからるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
大信しつりつりしきり

後初之院浄教

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

妙光寺内大信

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

二品法親王浄教

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

前大僧正頼意

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

二品法親王仁巻

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

浄教

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

上野大寺守永親王

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

中務御家永親王

おしんがらるる日暮しつりゆりてゆきしか妙光寺内
浄教

右近大納言長親

いふ人といふまにほむに世はよと清くかして
三光國師入滅の可うと仰る

妙无寺内大臣

あつと母のうらみいふにほむと清くかして
世にのして後保安寺の住持は此の寺の長无
うらみもいふつと仰る

祥子内親王

のうらわて思ふにまゝ法は道徳の可くはしやい
無明微薄智恵持者如後初日月无玄闇の玄畫
とふまにいふ

氣恵法親王

妹の月おして福を記新まゝ何との元は移殖より物

一念不生前後際断といふ

前大納言定平

また後又いつぬ白糸りるわやのうらわあは
也戒前より人好くめり中し不偷盜戒の
あはれと

中務卿家長親王

まろにわらひにじついとまゝいふは
不飲酒戒

うつらうと世にめくふあはれをくはさめぬゆい
子首三のうらわら中し不自讃歎他戒と

春宮大史師魚

神とりてわらひまゝにわらひ人とあはれつうく

如是性とふらふ心もも也なり

御製

淨妙經品の教と人れもめり申し序品入於深
心思惟伸道の心は 中務御家良親王

心少く入るる迷ふが本づけの道行もつかりきり
方便品其智慧門親解經入と

入るるまよふるも煩悩の吹き物なり月いそらんらん
且百弟子品不覺內衣裏有無價寶珠

いふもも衣れまよるるめはしるはるはるい
提婆品皆遙見彼龍女成伴

つら海は色川の波と分けてし又のさかりるはるうきと花

屬果品如世尊勅當具奉行

と急の世と見ふ仏所勅かた妙くありてふしふし

法華經廿八品哥うとゆもり中し提婆品若んと

中院八道一品

八色何るまは花のうらみ受るし色は毛はうてしよりり
涌出品

金さし演れがけ教とつとゆしきり人しきり花と
也十展轉法華の心はあはれ

寂惠法親王

法華經の心をすまはしてあはれし後ろかきあはる

